



# 統計スポット情報

No. 172

22.9.3

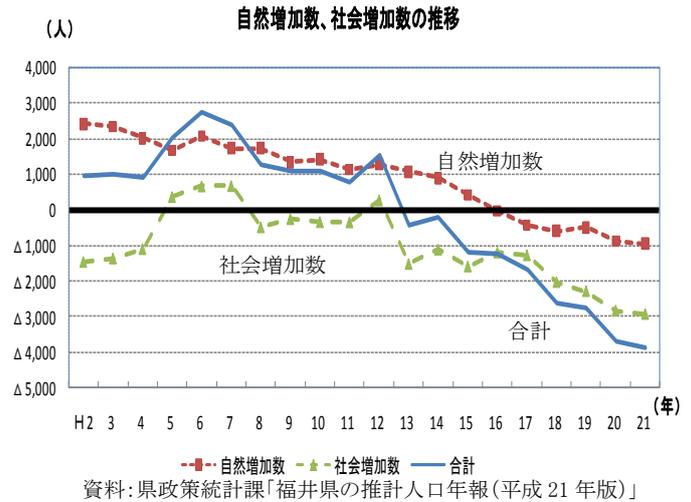
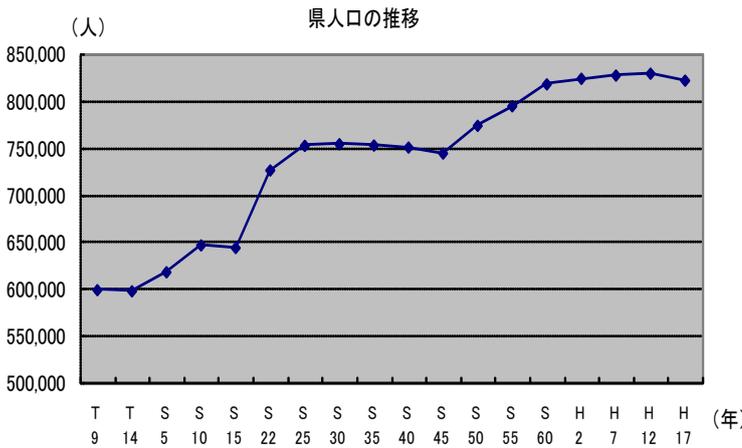
福井県総合政策部政策統計課

## — 国勢調査から分かる人口の推移 —

10月1日、国勢調査が実施されます。福井県の人口は何人と結果が出るでしょうか。(福井県の国勢調査速報値をあてるクイズを実施しています。 [www.pref.fukui.lg.jp/doc/toukei/jinkouate.html](http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/toukei/jinkouate.html))

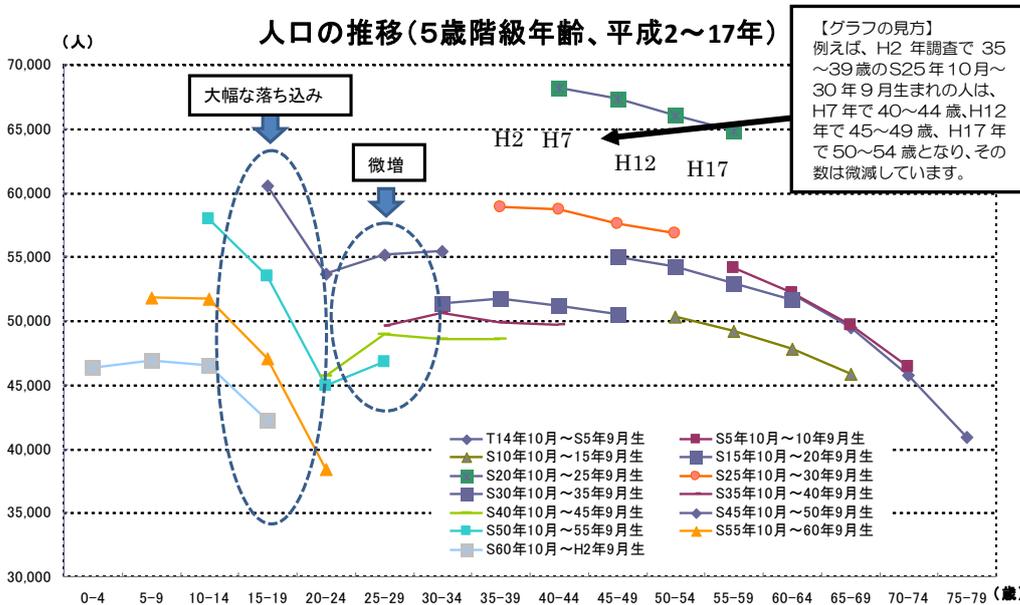
平成17年国勢調査の福井県の人口は821,592人でした。平成22年8月1日現在の推計人口は805,400人ですので、平成22年国勢調査の結果は平成17年からの減少が予想されます。

県の人口減少の要因はどのあたりにあるのでしょうか。今回は人口の推移にスポットをあててみます。



国勢調査の人口(常住人口)の確定値を基礎に、住民基本台帳および外国人登録原票の変更数(出生、死亡、転入、転出者数)を加減した福井県の推計人口から福井県の人口の推移をみると、出生数から死亡数を引いた自然増加数と、福井県への転入者数から他県への転出者数を引いた社会増加数をあわせた人口の増減数は、平成13年以降、マイナスとなっています。内訳をみると、自然増加数は平成16年に初めてマイナスに転じたのに対して、社会増加数は減少傾向で推移しています。出生数が減少し、死亡数が増加する中で、自然増加数の増加が社会増加数の減少をカバーできなくなったことが人口減の原因です。

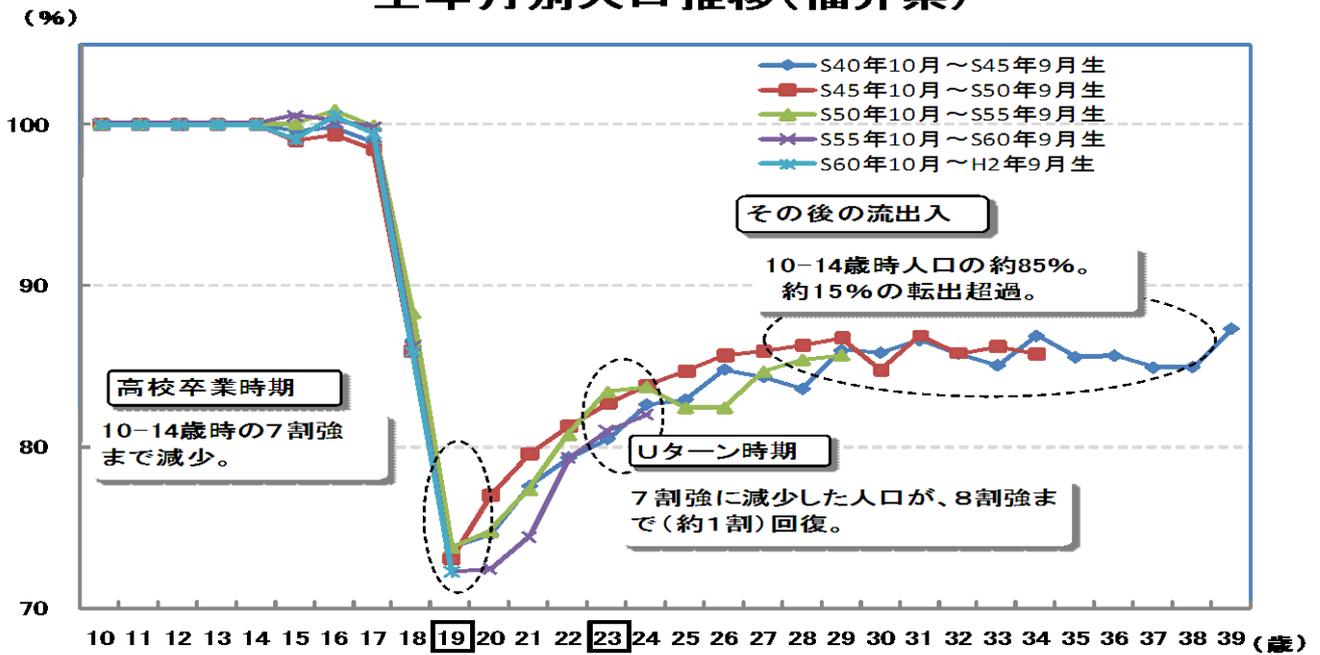
では、福井県で社会増加数が減少傾向で推移している要因は何でしょうか。



左は、大正14年~平成2年生まれの人口が平成2年、7年、12年、17年国勢調査でどう推移したかを5歳ごとの年齢区分で示しています。

これをみると、15~24歳の落ち込みが顕著です。それに対して、25~29歳は増加傾向にあり、その他の年齢では緩やかな減少傾向にあります。

# 生年月別人口推移(福井県)



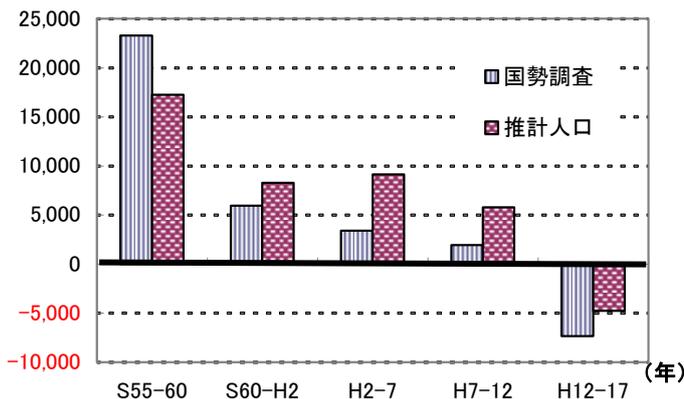
それでは、特徴的な動きを示す 15～29 歳周辺の人口がいつ、どれくらい流出するのか、10～14 歳時の人口を 100 として推移を示したグラフで見てみましょう。これは、例えば昭和 50 年の国勢調査で 10 歳だった昭和 40 年 10 月～41 年 9 月生まれの人が、15 歳になった昭和 55 年の国勢調査で、10 歳時の人口を 100 としてどのくらい増減しているか示しています。

これを見ると、18～19 歳で 10～14 歳時の 7 割強まで減少していることがわかります。一方、23 歳までで、10～14 歳時人口の 8 割強まで（約 1 割）回復した後、30 歳くらいまでで同約 85% まで戻り、その後横ばいとなっています。

このことから推察すると、大学等進学時期にあたる 18～19 歳に減少した人口の約 5 割が、23 歳頃の就職時期の U ターン等で回復するものの、最終的に減少人口の約 5 割は流出したまま、10～14 歳時人口の約 15% が転出超過となったと考えられます。

これらの動向が福井県の人口の推移に大きな影響を与えたといえるでしょう。

(人) 人口の増減



資料: 県政策統計課「福井県の推計人口年報(平成 21 年版)」  
国勢調査

ところで、国勢調査から見た人口増減と、推計人口から見た人口増減には、左のグラフのように、乖離があります。これは、住民基本台帳および外国人登録原票の変更に基づく推計人口では、住民票を移さない人の動きは把握できないためです。特に住民票を移さずに転居していることも多い大学生や短大生の動きは推計人口では捉えにくいと言えるでしょう。

人口調査の基本は国勢調査なのです。

※記載のない限り、データの出典は「国勢調査」



10月1日に、  
「平成 22 年国勢調査」を実施します。

我が国に住んでいるすべての人を対象とする  
国の最も基本的な統計調査です。  
どうぞよろしくお願いいたします。



平成 22 年 10 月 1 日